平成３０年度学校経営計画に対する最終報告書

石川県立門前高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準		備考	分析（成果と課題）及び今後の対応策
１主体的で対話的な深い学びの実現をめざして、ＩＣＴを活用した授業改善を図る。	・基礎学力及び家庭学習の定着	・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進	教務課 進路指導課 各学年	・生徒の授業態度は概ね良好だが、自ら学び理解を深める意識の醸成が必要である。	【成果指標】（生徒） 「私は事前に予習や宿題等の授業の準備をして臨んでいる」と評価した生徒が増えている。	「私は事前に予習や宿題等の準備をして授業に臨んでいる」と評価した生徒の割合が Ａ　６０％以上 Ｂ　５０％以上 Ｃ　５０％未満	【第２回生徒による学校評価アンケート結果（12月）】 ①必ず準備をして臨んでいる・・・・・11%（1年11%､2年14%､3年 7%） ②だいたい準備をして臨んでいる・・・60%（1年49%､2年72%､3年64%） ③余りやらず授業を受けている・・・・20%（1年23%､2年14%､3年22%） ④全くやらずに授業を受けている・・・ 9%（1年17%､2年 0%､3年 7%） ①＋②＝71%　**評価**　「A」	生徒対象調査 （7，12月）	【判定基準】Ｃの場合は改善策を検討する。 【分析】Ａではあるが、必ず準備をして臨んでいる生徒は１１％と低率である。 【今後の対応】低学年の英語・数学など核となる教科を中心に、具体的課題を提示して学習に取り組む姿勢を育てる。
	・生徒の思考力・判断力・表現力の向上	・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進	教務課 進路指導課	・生徒の授業理解度は高いが、今後、自分の意見を発信し相手と対話しながら物事を進める力を身につける必要がある。	【成果指標】（生徒） 「根拠に基づき、自分の意見を表現する（発表する）力が身についた」と評価した生徒が増えている。	「根拠に基づき、自分の意見を表現する（発表する）力が身についた」と評価した生徒の割合が Ａ　６０％以上 Ｂ　５０％以上 Ｃ　５０％未満	【第２回生徒による学校評価アンケート結果（12月）】 ①身についた・・・・・・・・15%（1年14%､2年18%､3年13%） ②だいたい身についた・・・・60%（1年43%､2年60%､3年76%） ③余り身についていない・・・22%（1年35%､2年22%､3年11%） ④全く身についていない・・・ 3%（1年 8%､2年 0%､3年 0%） ①＋②＝75%　**評価**　「A」	生徒対象調査 （7，12月）	【判定基準】Ｃの場合は改善策を検討する。 【分析】Ａではあるが、身についていないとする生徒は依然２５％存在する。上位の評価にシフトしていくことが必要だと思われる。 【今後の対応】新課程への移行を踏まえた上で、根拠を明示して表現する課題をすべての授業で増やしていき、習熟させていきたい。
		・門高読書タイムや図書館講座の実施	図書課 教務課 進路指導課	・読書活動を通して生徒の思考力･表現力･判断力の下支えする力を養成する必要がある。	【成果指標】（生徒） 「年間３冊以上の本を読んだ。（読書タイムに読んだ本も含む）と評価した生徒が増えている。	「年間３冊以上の本を読んだ」と答えた生徒の割合が Ａ　６０％以上 Ｂ　５０％以上 Ｃ　５０％未満	【第２回生徒による学校評価アンケート結果（12月）】 ①３冊以上読めた・・・・・53%（1年66%､2年62%､3年34%） ②２冊読めた・・・・・・・20%（1年17%､2年15%､3年27%） ③１冊読めた・・・・・・・22%（1年11%､2年19%､3年34%） ④全く読んでいない・・・・ 5%（1年 6%､2年 4%､3年 5%） ①＋②＝73%　**評価**　「A」	生徒対象調査 （7，12月）	【判定基準】Ｃの場合は改善策を検討する。 【分析】全体の７割以上の生徒が本を2冊は読んでいるが依然として思考力や表現力に変化はあまり見られない。 【今後の対応】読書タイムの最終日に読書タイムノートを持ち寄り意見交換をする時間を設けたり、小説だけではなく新書のおすすめも行ったりして思考力や表現力の育成につなげたい。
	・教員の授業力及び資質・能力の向上	・教員による「学校評価アンケート」の結果に基づく授業改善	教務課 進路指導課	・新学習指導要領が求める生徒の資質・能力を育成するために教員の探究的な学習指導スキルの向上が必要である。	【成果指標】（教員） 「生徒の思考力・表現力を高めるために発表型の授業を実施している（実施した）」と評価した教員が増えている。	「生徒の思考力・表現力を高めるために発表型の授業を実施している（実施した）」と評価した教員の割合が Ａ　６０％以上 Ｂ　５０％以上 Ｃ　５０％未満	【第２回教員による学校評価アンケート結果（12月）】 ①実施している・・・・・・・16% ②概ね実施している・・・・・68% ③余り実施していない・・・・16% ④全く実施していない・・・・ 0% ①＋②＝84%　**評価**　「A」	教員対象調査 （7，12月）	【判定基準】Ｃの場合は改善策を検討する。 【分析】Ａではあるが、概ねの段階にとどまっている教員が多い。全体として上位の評価にシフトさせていきたい。 【今後の対応】互見授業期間を利用し、校内研修をすすめていきたい。
		・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進			【成果指標】（生徒） ＩＣＴ機器により授業の理解度が高まった。	「ICT機器を効果的に使っている」と評価した生徒の割合が Ａ　６０％以上 Ｂ　５０％以上 Ｃ　５０％未満	【第２回生徒による授業評価結果（1月）】 ①効果的に使っている・・・・・・46%（1年44%､2年56%､3年41%） ②まあまあ効果的に使っている・・・25%（1年26%､2年13%､3年34%） ③あまり使っていない・・・・・・10%（1年6%､2年10%､3年14%） ④まったく使っていない・・・・・19%（1年24%､2年21%､3年12%） ①＋②＝71%　**評価**　「A」	生徒対象調査 （7，12月）	【判定基準】Ｃの場合は改善策を検討する。 【分析】ICT機器は、教員の間で取り合いになるほど稼働率が高くなっているが、一方で使われていない教科も存在する。 【今後の対応】授業で使うことを前提として準備することができるように、さらにICT機器を整備していく。使っていない教科には活用を呼びかけ、使用場面を具体的に提案していく。

学校関係者評価委員会の評価	新学習指導要領が求める生徒の資質・能力を育成するために教員の探究的な学習指導スキルの向上が必要であるとして、「生徒の思考力・表現力を高めるために発表型の授業を実施している（実施した）」とあるが、ここで学んだ思考力・表現力はどのようなことに繋がるか。
評価結果を踏まえた今後の改善策	地域の活性化に貢献できるリーダー、いろいろな職場で活躍できるリーダーとなるために必要な資質・能力に繋がると考える。今後も学校全体で継続して取り組んでいく。

平成３０年度学校経営計画に対する最終報告書

石川県立門前高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	備考	分析（成果と課題）　及び次年度の扱い（改善策等）
２キャリア教育の充実と学力の向上によって、多様な進路実現を図る。	・進路意識の醸成と早期確立	・外部講師によるキャリア教育講演会 ・クリエイティブ人材育成事業 ・企業人インタビューDVDの活用 ・インターンシップ ・進路講演会 ・進路学習 上級学校キャンパスツアー	進路指導課 各学年	・くことの意味や自分の適性を理解して、将来の進路設計を立てる力を養成する必要がある。	【努力指標】（生徒） 自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができるようになったと評価した生徒が増えている。	自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができるようになったと評価した生徒の割合が A　７０％以上 B　６０％以上 C　５０％以上 D　５０％未満	【第２回生徒による授業評価結果（12月）】 ①できるようになった・・・・・・・25%（1年17%,2年30%,3年29%） ②だいたいできるようになった・・・54%（1年46%,2年44%,3年69%） ③ほとんどできない・・・・・・・・19%（1年32%,2年26%,3年 2%） ④全くできない・・・・・・・・・・ 2%（1年 5%,2年 0%,3年 0%） ①＋②＝79%　**評価　「A」**	生徒対象調査 （7，12月）	【判定基準】Ｃ，Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】クリエイティブ人材育成事業や大学模擬授業、バス見学会を通して、進路について考える機会を持つことができているが、深く考える段階までに伸ばすには、教員の進路指導に関するスキル向上が必要である。後期は、学年主任が進路指導に関する校外研修会に参加し、生徒への指導に活かすことができた。 【今後の対応】・進路指導に関する校内・校外研修会を通して、教員の進路指導スキル向上に向けた取組を継続する。 ・特に１年生についてはポートフォリオを活用する。
	・個に応じた学習指導の充実による進路実現	・習熟度別授業 ・放課後補習 ・個別指導	教務課 進路指導課 各学年 各教科	・多様な進路志望の生徒に応じた指導の更なる充実が求められている。 ・大学進学を目指す生徒への個に応じた学習指導の向上が求められている。	【成果指標】（教員） （１・２年生） 対外模試の成績を伸ばした生徒が増えた。（７月と１月模試の結果で判定する）	対外模試の成績を伸ばした生徒の割合が A　７０％以上 B　６０％以上 C　５０％以上 D　５０％未満	【７月進研模試結果と１月進研模試の比較（全国偏差値）】 １年生　36%　**評価「D」**　（国数英３教科） ２年生　33%　**評価「D」**　（国数英３教科）	対外模試結果	【判定基準】７月と１月の模試結果分析で判定する。Ｃ，Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】国数英３教科で判定　１年生28名中上昇者10名　２年生12名中上昇者４名 授業で「骨太」の学力を身につけさせる意識を持ち、確実な定着を図ると同時に、個別面談および個に応じた課題等を通して、得意科目の伸長および苦手科目・分野の克服を図る必要がある。 【今後の対応】・教科担当者が到達目標を明確に意識し、定期考査・模擬試験の採点結果から指導を振り返り、指導改善を行う。 ・特に上位層、中位層については層別に課題学習を行い、更なる学力向上を図る。
					【満足度指標】（生徒） （３年生） 卒業後の生徒の進路先の満足度で計る。	卒業後の自分の進路決定について満足している生徒の割合が A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	【第２回生徒（３年生）による学校評価アンケート結果（12月）】 ①満足している・・・・・・・・・・・50% ②だいたい満足している・・・・・・・50% ③余り満足していない・・・・・・・・ 0% ④全く満足していない・・・・・・・・0% ①＋②＝100%　**評価　「A」**	生徒対象調査 （9，1月出願時）	【判定基準】Ｃ，Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】卒業生38名の進路先は、国公立大学４名私立大学９名短期大学３名看護・医療学校２名専門学校５名公務員２名民間企業13名であり、国公立大学希望者は６名中４名合格、公務員希望者は５名中２名合格であった。 【今後の対応】・国公立大学希望者については、生徒・教科担当者がともに希望先と現時点の学力の差を意識し、個に応じた指導を早期から行っていく。 ・公務員希望者については、合格できなかった場合の対応を十分に検討しておく。
	・インクルーシブ教育による生徒支援の充実と進路実現	・インクルーシブ教育の涵養をねらいとする校内研修会、個別事例研修会の実施 ・教員のカウンセリングマインドの涵養のための研修会の実施	教育相談 全教員	・支援を要する生徒が増えてきている。	【成果指標】（教員） 研修会等によりインクルーシブ教育について理解を深め、指導に役立てることができる教員が増えた。	研修会等によりインクルーシブ教育について理解を深め、指導に役立てることができる教員の割合が A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	【第２回教員による学校評価結果（12月）】 ①理解を深め、指導に役立てることができる・・・・・・・・11% ②概ね理解し、指導に役立てることができる・・・・・・・・63% ③理解が浅く、余り指導に役立てられない・・・・・・・・・26% ④理解しておらず、全く指導に役立てることができない・・・ 0% ①＋②＝74%　**評価「B」**	教員対象調査 （7，12月）	【判定基準】Ｃ，Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】７割以上が指導に役立てることができるがまだ浸透していないと感じる場面がある。 【今後の対応】　生徒にあった支援を計画しケースにより外部機関との連携を行い、校内研修の工夫し充実したものにして理解を高める。

学校関係者評価委員会の評価	模擬試験の結果について７月の結果から１月の結果の伸び率が伸び悩みの原因は家庭学習か。
評価結果を踏まえた今後の改善策	家庭学習が伸び悩みのひとつと考える。今後は教科担当者が到達目標を明確に意識し、定期考査・模擬試験の採点結果から指導を振り返り、指導改善を行う。特に上位層、中位層については層別に課題学習を行い、家庭学習の充実等、更なる学力向上を図る。 １年生についてはポートフォリオを活用している。核となる教科を中心に、具体的課題を提示して学習に取り組む姿勢を育てる。

平成３０年度学校経営計画に対する最終報告書

石川県立門前高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	備考	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
３ワークライフバランスを取りながら部活動やボランティア活動によって学校の活性化を図る。	・教員の働き方改革の推進	・部活動年間計画、月別活動計画作成及び見直し ・計画的、協働的な校務の推進 ・定時退庁日の設定 ・最終退校時間の設定と実践	全教員	・教員の多忙化解消に向けた取組の実践が喫緊の課題である。	【成果指標】（教員） 最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、計画的・効率的に校務を行う教員が増えている。	最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、計画的・効率的に校務を行う教員の割合が A　８０%以上 B　７０%以上 C　６０%以上 D　６０%未満	【第２回教員による学校評価結果（12月）】 ①行っている・・・・・37% ②概ね行っている・・・52% ③余りできない・・・・11% ④全くできない・・・・ 0% ①＋②＝89%　**評価「A」**	教員対象調査（7，12月）	【判定基準】Ｃ，Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】中間報告では、全くできていないが５%であったが、管理職の指導等で０%になり、①＋②が７９%が８９%に改善された。先生方の意識も向上したことが結果に表れた。 【今後の対応】更に効率よく業務をこなせるようにし、余りできていないを解消できるように、自分たちの意識を高めていきたい。
	・各種行事・諸活動への自主的参加	・各種校内行事 ・学校企画の諸活動 ・学校祭等の生徒会活動	生徒会 総務課	・どの活動においても概ね意欲的に参加しているが、より自主的な活動になるよう指導し、良好な人間関係形成や自己有用感の向上につなげる。	【成果指標】（生徒） 行事や諸活動において、企画・運営に自主的に参加できた。	各種校内行事に自主的に参加し、自己の役割を果たしたと実感できた生徒の割合が A　８５%以上 B　７０%以上 C　６０%以上 D　６０%未満	【第２回生徒による学校評価結果（12月）】 ①果たせた・・・・・・・・43%（1年32%､2年45%､3年54%） ②だいたい果たせた・・・・45%（1年46%､2年45%､3年44%） ③余り果たせていない・・・10%（1年17%､2年10%､3年 2%） ④全く果たせていない・・・ 2%（1年 5%､2年 0%､3年 0%） ①＋②＝88%　**評価「A」**	生徒対象調査（7，12月）	【判定基準】Ｃ．Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】 生徒が各委員会、クラス内等でそれぞれの役割を自覚し、誠実に取り組んだ結果、多くの生徒が自己の役割を果たしたと実感できている。 【今後の対応】 役割を果たせていないと感じている生徒が１割程度いるため、生徒会が主体となって取り組みを行えるようにする。
	・部活動を通した人間力の育成	・競技力、表現力向上を目指した日々の取組	生徒会 部顧問	・限られた時間を有効に活用し、競技力・表現力の質の向上を目指すことで個々の人間力を高める。	【成果指標】（生徒） 自主的に部活動に取り組むことで、自分を成長させることができた。	部活動を通して自分が成長したと感じた生徒の割合が A　７０%以上 B　６０%以上 C　５０%以上 D　５０%未満	【第２回生徒による学校評価結果（12月）】 ①できた・・・・・・・・64%（1年46%､2年68%､3年79%） ②だいたいできた・・・・25%（1年32%､2年22%､3年21%） ③余りできていない・・・ 7%（1年11%､2年10%､3年 0%） ④全くできていない・・・ 4%（1年11%､2年 0%､3年 0%） ①＋②＝89%　**評価「A」**	生徒対象調査（7，12月）	【判定基準】Ｃ，Ｄの場合は、該当部活で原因を分析し、改善策を検討する。 【分析】 生徒が主体的に部活動に取り組んだ結果、多くの生徒が部活動を通して自分が成長できたと感じている。 【今後の対応】 部活動を通して自分が成長できていると感じられない生徒が１割程度いるため、そういった生徒が主体的に取り組めるよう部活動に取り組みやすい環境・雰囲気づくりや働きかけを行っていくようにする。
	・ボランティア活動による地域・他者貢献意識の高揚	・総持寺参道清掃 ・海岸清掃 ・暑中見舞い、年賀状作成	総務課 生徒会 全校生徒	・部活動単位でのボランティア活動には参加しているが、今後自主的に参加する姿勢を涵養していく。	【成果指標】（生徒） 学校行事も含めた各種ボランティア活動に年３回以上参加した。	活動に年３回以上参加した生徒の割合が A　７０%以上 B　６０%以上 C　５０%以上 D　５０%未満	【第２回生徒による学校評価結果（12月）】 ①３回以上参加した・・・82%（1年94%､2年74%､3年79%） ②２回参加した・・・・・13%（1年 2%､2年26%､3年13%） ③１回参加した・・・・・ 4%（1年 2%､2年 0%､3年 8%） ④全く参加していない・・ 1%（1年 2%､2年 0%､3年 0%） ①＋②＝95%　**評価「A」**	生徒対象調査（7，12月）	【判定基準】Ｃ，Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】ボランティア活動に参加した生徒達は、真摯に行動してくれた。ボランティア活動の意義を十分に理解しているが、積極的に参加できていない生徒もいた。 【今後の対応】教職員が手本を示し、どんな小さなことでも、自らが積極的に行動できるように指導する。
		・各種地域行事への参加	総務課 ボランティア部	・過疎化が進み、独居老人が増えている。そのお年寄りたちの参加する各種地域のイベントに積極的に協力することで他者や地域貢献の精神を涵養する。	【満足度指標】（生徒） ボランティア活動を通して、他者や地域への貢献の意義を理解した。	活動を通して、他者や地域貢献の意義を理解した生徒の割合が A　７０%以上 B　６０%以上 C　５０%以上 D　５０%未満	【第２回生徒による学校評価結果（12月）】 ①できた・・・・・・・・60%（1年55%､2年60%､3年66%） ②だいたいできた・・・・33%（1年38%､2年29%､3年32%） ③余りできなかった・・・ 6%（1年 5%､2年11%､3年 2%） ④全くできなかった・・・ 1%（1年 2%､2 年0%､3年 0%） ①＋②＝93%　**評価「A」**	生徒対象調査（7，12月）	【判定基準】Ｃ，Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】門前地区は、高齢者が多く、若い世代との交流を心待ちにしている人も多い。敬老会や社会体育大会、季節ごとのお祭り、地区の特別養護老人ホームへの訪問等、多くの機会があり、生徒達は高い意識で手伝いや交流を行ってくれた。 【今後の対応】全生徒が分担して行っているのでなく、部単位で行っている。部単位で行うのは継続しつつ、全生徒が関われる活動にしたい。そのためには、普段からの掃除、行事等しっかりできる態度の育成を行っていく。

学校関係者評価委員会の評価	・インターネットによる学習環境づくりや働き方改革のための機器導入など新聞記事で見たが、門前高校はどうなのか。 ・ボランティア活動については公民館行事の９月の敬老会、１０月の社会体育大会等、高校生のボランティア参加に対して、感謝している。頼んだことを素直に活動してくれて感心している。地域の人々と活動することによって高校生の社会性やコミュニケーション能力の育成に役立つと思う。
評価結果を踏まえた今後の改善策	・ICT機器は、教員の間で取り合いになるほど稼働率が高くなっている。今後も、さらにICT機器の整備・学習環境づくりを図っていく。 ・ボランティア活動については地元に活きるボランティア活動として目指している。門前地区は、高齢者が多く、若い世代との交流を心待ちにしている人も多い。敬老会や社会体育大会、季節ごとのお祭り、地区の特別養護老人ホームへの訪問等、多くの機会があり、生徒達は高い意識で手伝いや交流を行っている。全生徒が分担して行っているのでなく、部単位で行っている。部単位で行うのは継続しつつ、全生徒が関われる活動にしたい。そのためには、普段からの掃除、行事等しっかりと行動できる態度の育成を行っていく。

平成３０年度学校経営計画に対する最終報告書

石川県立門前高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	備考	分析（成果と課題）　及び次年度の扱い（改善策等）
４安心・安全な学校づくりを推進する。	・いじめの早期発見・早期対応	生徒指導課 教育相談 教員全員	・昨年度は認知無しだったが、「いじめは起こりえるもの」の意識を教員が常に持ち、未然防止に尽力する。 ・生徒の自己有用感を高め良好な人間関係づくりを進める取組を継続する。	【成果指標】（教員） 研修会等によって、いじめ問題について理解を深め、予防的生徒指導に結びつけている。	研修会等によって、いじめ問題について理解を深め、予防的生徒指導に結びつけている教員の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	【第２回教職員による学校評価結果（12月）】 ①できる・・・・・・・32% ②概ねできる・・・・・63% ③余りできない・・・・ 5% ④全くできない・・・・ 0% ①＋②＝95%　**評価「A」**	教員対象調査 （7，12月）	【判定基準】Ｃ，Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】今年度も、これまでのいじめの認知は０件である。質問紙調査の結果のみならず、気になる生徒については学級担任および教科担任と情報を共有し、またそれらを全体に伝えることを心掛けて指導に当たってきた。その結果のA判定ではあるが、未然防止のための人間関係づくりや自己有用感・肯定感を持たせるための仕掛けづくりなどが「できる」と言い切れる教員の数がまだ少ない。 【今後の対応】主に若手教員を対象とした生徒指導のプチ研修会を計画する。指導の仕方で悩んだ時には相談ができる体制づくりもしていく。
	・スマートフォン等によるネットトラブルの未然防止	生徒指導課 教育相談 教員全員	・校内での使用ルールは浸透しているが、家族との連絡以外に放課後使用する生徒が依然見られる。今後もスマートフォン等の危険性を説明し、指導を継続しながら生徒自身がその危険性を意識できるようにする。	【成果指標】（生徒） 「私は校内でのスマートフォンや携帯電話の使用ルールを守っている」と評価した生徒の割合で判断する。	「私は校内でのスマートフォンや携帯電話の使用ルールをしっかり守っている」と評価した生徒の割合が Ａ　８５％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	【第２回生徒による学校評価結果（12月）】 ①守れた・・・・・・・・58%（1年50%､2年74%､3年55%） ②だいたい守れた・・・・42%（1年50%､2年26%､3年45%） ③余り守っていない・・・ 0%（1年 0%､2年 0%､3年 0%） ④全く守っていない・・・ 0%（1年 0%､2年 0%､3年 0%） ①＋②＝100%　**評価「A」**	生徒対象調査 （7，12月）	【判定基準】Ｃ，Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】スマホ等を持ってきた場合は預ける、というルールは今のところ徹底されており、生徒の守れている意識もそこを基準とLA判定となっていると考えられる。しかし実際のところ、登校後や放課後など、校内で自分の手に機器がある場合に、「自らを律してルールを守る」というところまではできているとは言えない。 【今後の対応】ネット等の使用状況調査の結果からも、ネットへの依存傾向が見られる生徒や、リテラシー及びモラルが十分でない生徒がいることが計り知れた。他機関との連携も視野に入れ、生徒に必要な指導をし、自ら正しい使用の仕方を考え実行できるようにしていく。
				【成果指標】（教員） 「私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し、指導に生かしている」と評価した教員の割合で判断する。	「私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し、指導に生かしている」と評価した教員の割合が Ａ　８５％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	【第２回教職員による学校評価結果（12月）】 ①生かしている・・・・・・・52% ②概ね生かしている・・・・・37% ③余り生かしていない・・・・11% ④全く生かしていない・・・・ 0% ①＋②＝89%　**評価「A」**	教員対象調査 （7，12月）	【判定基準】Ｃ，Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】今年度はこれまでのところ、ネット等の使用に関する大きなトラブルは起こっておらず、それに対応・指導する場面は無かった。未然防止のための指導・助言についてはA判定と考えられる。 【今後の対応】生徒を取り巻く状況や情報技術は常に変化しているので、アンテナを高くし、生徒の状況や指導に必要な知識を職員全体で共有し、必要と思られる時には他機関との連携も視野に入れた指導を心掛けていく。
		保護者	・使用時間・内容など、スマートフォン（携帯電話）等の使用のルール作りについて、継続して家庭での協力を求める。	【努力指標】（保護者） 「家庭でスマートフォンや携帯電話等の使用の仕方について話し合い、実践している」と評価した保護者の割合で判断する。	スマートフォンや携帯電話等の使用の仕方について話し合った保護者の割合が Ａ　７０％以上 Ｂ　６０％ Ｃ　５０％ Ｄ　５０％未満	【第２回保護者による学校評価結果（12月）】 ①話し合った・・・・・・・・38% ②話し合っていない・・・・・62% ①＝38%　**評価「D」**	保護者アンケート （7，12月）	【判定基準】Ｃ，Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】昨年度は７月１回の調査であった。今年度は昨年度よりも家庭で話し合った件数の割合が高く、中間ではA判定であった。しかし、１２月はその半数となってしまった。定期的に話をする家庭は少ないという実態が分かった。 【今後の対応】長期休業前後、学校公開週間・人権週間などに機会を設け、生徒に対し使用の仕方等を指導するのに合わせて学校だより等を発行し、ルールの見直しを呼びかけたり、ルール作りの重要性を伝えたりできるよう取組を考える。併せて、学校評価に係る質問項目についても、より実態の把握に有効な回答が得られる問いとなるよう改善する。
	・通学時の交通安全	・自転車マナー指導 ・教職員・ＰＴＡによる街頭指導 ・交通安全に関する調査	生徒指導課	・自転車マナーに関する指導を受けた生徒は昨年度いなかったが、保護者・地域の方にも協力を仰ぎながら今後も生徒の規範意識向上に取り組む。	【努力目標】（教員） 生徒の交通安全意識向上に向けて、街頭指導を実施する。 （年間３回以上参加する）	生徒の交通安全意識向上に向けて、街頭指導３回以上参加した教員の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	【第２回教職員による学校評価結果（12月）】 ①３回以上参加した・・・・・・63% ②２回参加した・・・・・・・・37% ③１回しか参加していない・・・ 0% ④全く参加していない・・・・・ 0% ①＋②＝100%　**評価「A」**	教員対象調査 （7，12月）	【判定基準】Ｃ，Ｄの場合は改善策を検討する。 【分析】新年度、６月の自転車マナー指導、９月のグッドマナーキャンペーンにおいて、全教員がA回答できるよう取組を考えた。しかし、全員がA回答とはならなかった。 【今後の対応】提案通りに全教員が指導に当たることを大前提とし、より効果的な指導の在り方を検討していく。その際、PTAの生活指導委員会でいただいた意見を生かし、指導箇所の変更、具体的な指導事項（右側通行など）の明記等、共通実践しやすい提案の仕方も考える。

学校関係者評価委員会の評価	・いじめ調査については、年間何回実施しているのか。ある中学校でからかいから始まり、生徒の不登校へと深刻化してしまう場合があったと聞く。門前高校は、中学・高校と生徒同士がほとんど顔見知りのため、深刻化ならないよう中学・高校と密に連携してほしい。 ・自転車通学１人の地域もあるので、見守りを大切にしてほしい。 ・近年、親の教育にかける期待は高い。その中で地元の高校を選んでいる。来年度の新入生を大切にしてほしい。
評価結果を踏まえた今後の改善策	・いじめ調査については、年間１０回は実施している。また、本校は中学校と密に連携しているので、情報共有して生徒の心の成長を図りながら指導している。スマホの使用法などリテラシー及びモラルを他機関と連携して指導していく。 ・自転車マナー指導では自転車通学１人の所も指導している。 ・今後も落ち着いた環境の中で、七尾特別支援輪島分校と理解・協力を図り、挨拶・態度の良い、安全・安心な学校にしていきたい。